

高等学校事例Ⅱ

活用場面	職員会議		
実施時期	7月下旬	活用時間	10分
ねらい	<p>アンケート調査の結果を知ることにより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の「いじめ」に対する判断の傾向を理解する。</li> <li>・自分自身や他の教員の「いじめ」に対する判断の傾向を理解する。</li> <li>・今後のいじめに対する組織的対応に生かす。</li> </ul>		
特色・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職研修での報告を検討したが、年間計画には他の研修内容が予定されていたため、職員全員が集まる職員会議で報告することとした。</li> <li>・アンケートの分析結果と委員自身がまとめた資料（A4版1枚）を、事前に校内ネットワークに掲載して閲覧できるようにした。</li> <li>・職員会議では、各自のパソコンで資料を閲覧してもらいながら、口頭で報告した。</li> </ul>		
内容・流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究協議会で得られた知見について（高校生・教員の認識の傾向、男女の差）</li> <li>・生徒と教員ともに、全項目で「いじめである」と「いじめではない」の判断が割れていること（個人差）の再確認</li> <li>・生徒と教員の差から、教員が見逃しやすい項目の共有</li> <li>・（職員会議後）振り返り、感想の記入</li> </ul>		
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の回答と異なる意見が予想以上に多いことに驚き、教員同士でコミュニケーションを図る必要があると感じた。</li> <li>・教員の中で、「いじめではない」の回答が意外に多く驚いた。もしかしたら、いじめを見逃すかもしれないと感じた。</li> <li>・いくつかの項目で「いじめではない」と回答したが、それは「許されること」という意味ではなく、「いじめの範囲を超えた犯罪」という考えであり、「いじめではない」の回答には、いろいろなニュアンスが含まれている。</li> <li>・意見の違いはあるが、重要なことは被害者を守ることである。</li> </ul>		
委員所感	<p>生徒間の認識の違いを数値で理解することができ、教員はこの個人差を意識し、より適切な言葉がけができるようになることが期待される。また、教員も自分自身の判断の特徴を理解することで、生徒の行為に対してより客観的な判断ができるようになると思われる。生徒の問題行動に対して学校が組織的に対応するには、教員同士が共通の見解をもつことが重要であり、そのためには話し合いが必要であるということを実感するよい機会となったと感じる。</p>		